

IDE Updates -- 研究所の取り組みをご紹介します

著者	荒木 慶太郎
権利	Copyrights 日本貿易振興機構（ジェトロ）アジア 経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	255
ページ	51-52
発行年	2016-12
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://doi.org/10.20561/00048594



会場からの質問に回答する ODI のスティーブン・ゲルプ主任研究員

研究所としては初めてアフリカ開発会議 (TIICAD) の公式イベントを開催

アフリカでは初の開催となる第六回アフリカ開発会議 (TIICAD VI) が八月二七日、二八日の二日間、ケニアの首都ナイロビで開催されました。この TIICAD VI において、アジア経済研究所 (以下、研究所) としては初となる TIICAD 公式サイドイベントを八月二八日 (日) に開催しました。本イベントは「工業化・民間セクター開発を通じたアフリカの経済構造改革」と題したセミナー形式で実施され、ナイロビに本部を置くアフリカ経済研究コンソーシ

ウム (African Economic Research Consortium: AERC)、またイギリスの海外開発研究所 (Overseas Development Institute: ODI) と共催しました。

AERC は国連開発計画や世界銀行などが出資するアフリカ経済研究に特化した国際研究コンソーシウムであり、ODI は途上国開発分野で著名な研究機関です。これら広範な国際ネットワークを有する研究機関とセミナーを開催することにより、アフリカ各国やその他の国々からの TIICAD 参加者に対する効果的な情報発信を目指しました。

アフリカ各国からの多くの参加

AERC は国連開発計画や世界銀行などが出資するアフリカ経済研究に特化した国際研究コンソーシウムであり、ODI は途上国開発分野で著名な研究機関です。これら広範な国際ネットワークを有する研究機関とセミナーを開催したことにより、アフリカ各国の政府担当者や民間企業の方々が参加者全体 (約七〇名) の過半数を数え、研究所と共催機関のアフリカに関する研究成果を、効果的に現地に還元することができました。以下、セミナー内容をご紹介します。

中規模企業の育成が成長のカギ

最初の講演を務めた ODI のスティーブン・ゲルプ主任研究員・民間セクター開発チーム長は、途上国の成長戦略には天然資源依存型と軽工業中心の非熟練労働集約型とがあり、アフリ

カの成長を考える際には、その国の実情に合わせた選択が重要であるとなりました。また、製造業の成長を促すカギになる競争力のある中規模企業の持続的育成には、産業別クラスターの形成が有効であると論じました。さらに、クラスター単位の業界団体が、企業間の情報共有や共同行動の調整といった、いわゆる「公共財」の提供を担うことが、企業の成長に資すると述べました。

輸出加工区 (EPZ) やアフリカ成長機会法 (AGOA) の適用に一定の効果あり

続いてナイロビ大学教授のゲリシオン・イキアラ氏は、過去の政策面における失敗に言及しつつ、一九八〇年代に適用された構造調整計画および EPZ や AGOA を活用した輸出拡大によって、財政上のインパクトはそれほど大きくなかったものの、経済自由化による企業の輸出機会増加や外国為替へのアクセス改善などでは一定程度の効果があつた、と述べました。

ビジネス環境の水準に応じた賃金コストが重要

最後に講演を行った研究所の福西隆弘地域研究センター・アフリカ研究グループ長は、アフリカの製造業が持つ成長の可能性について言及しました。ケニアとマダガスカルは縫製業を比較し、二〇〇四年の多角的繊維協定 (MFA) 撤廃によって、ケニアの輸出が一時的に鈍化した一方、マダガスカルは比較的影響を受けずに



登壇中の研究所の大塚啓二郎新領域研究センター上席主任調査研究員と会場の様子

成長を続けたという事例を示し、マダガスカルはケニアと比べて賃金が低いため、MFA終了後も輸出競争力を保ち続けることができたのではないかと論じました。また、成長の制約要因の一つとして製造コストを挙げ、特に労働集約型産業においては輸出競争力にも大きく影響する、賃金コストの問題を指摘しました。そして国民一人あたりGDPが比較的近い国の賃金を比較したところ、ケニア都市部のフォーモール・セクターにおける賃金は、バングラデシユやカ

ンボジアなどよりも高い水準にあると述べました。また、工業化を経験してきた多くの国においては、農業から工業への労働人口の移動、農村から都市への人口移動が観察されてきたが、アフリカではそうした労働移動の動きが弱いことを指摘しました。

アフリカ経済成長のカギを握る三つのポイント

パネルディスカッションでは、研究所の佐藤寛新領域研究センター上席主任調査研究員がモデレーターを務めました。パネルディスカッションに加わった同じく研究所の大塚啓二郎新領域研究センター上席主任調査研究員は、上述した三つの報告を受け、①アフリカ（ケニア）のフォーモール・セクターにおける高水準の賃金への対応、②中規模企業の育成、③産業クラスターの形成と業界団体の果たす役割、の三点がアフリカ経済成長のカギとして重要である、としました。

そして①については、明らかな労働市場の不完全性が働いており、アフリカ企業は賃金水準に比較優位があるアジア各国と競争できない、としました。また②については、東アジアにおいてはある程度中規模企業が成長している反面、アフリカでは中規模に成長する企業がほとんどない状況を指摘し、産業政策の支援が十分でないことが主な原因の一つである、としました。さらに③については、産業クラスターが有する企業の成長への効果（企業間取引、優秀な労働者確保などにおける効果）を指摘した上で、産



講演する研究所の福西隆弘地域研究センター・アフリカ研究グループ長

業クラスターでは市場情報や技術知識、信頼できる取引先の評判など、企業に有益なローカルな「公共財」が存在し、これらの調整役として形成される業界団体の果たす役割が、産業クラスター発展の重要な要素となると同時に、産業政策立案を担う政策担当者との間の適切な情報交換においてもカギになる、と論じました。

「TICAD VI」終了後も、アジア経済研究所は、アフリカ研究、および日本とアフリカの研究交流の深化に取り組んでまいります。アジア経済研究所のイベント情報は、ウェブサイトでもご覧いただけます (<http://www.ide.go.jp/Japanese/Event/>)。

(文責：研究マネジメント職 荒木慶太郎)